

8. イエスはどこでどのようにして生まれたのですか？

ごく初期から、教会の聖伝はイエス誕生の超自然性を伝えて来た。

2016/09/28

福音記者のうちマタイとルカが、イエスがベツレヘムで生まれたと書いている（「イエスが生まれたのはベツレヘムですか、それともナザレですか？」を参照）。マタイは場所を特定しなかったが、ルカは、子ども

を産んだ後マリアは「布にくるんで
飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼ら
の泊まる場所がなかったからであ
る。」（ルカ2.7）と述べた。「飼い
葉桶」という言葉はイエスが生まれ
た場所に家畜がいたことを示す。ル
カはまた、飼い葉桶に寝かされてい
る乳飲み子が羊飼いたちにとって、
生まれた救い主の印であるとのべて
いる。「泊まる場所」を表すために
使われたギリシャ語はkatálymaであ
る。それは応接室として使うことも
できる広い部屋を表す単語である。
新約聖書ではこのほかに、イエスが
弟子たちと最後の晚餐を祝うために
使った高間を表すために2回使われ
ている（ルカ22.11、マルコ
14.14）。おそらく、福音記者はこの
言葉によって、出来事の秘密を守れ
ないような場所であったということ
を示したかったのだろう。ユスティ
ノ（『トリフォンとの対話』78）は
洞窟で生まれたと言い、オリゲネス
（『ケルソス駁論』I, 51）や偽福音

書も同様に言っている（『偽ヤコブ』20、『幼年時代のアラブ語の福音』2、『偽マタイ』13）。

ごく初期から、教会の聖伝はイエス誕生の超自然性を伝えて来た。アンティオキアの聖イグナチオは西暦100年頃、「この世の王子（悪魔）にはマリアの処女性も、その出産も、主の御死去も隠された。3つの驚くべき神秘は神の沈黙のうちになされた」（『エフェソの信徒への手紙』19.1）。2世紀の終わり頃、聖イレネオは、マリアの出産は無痛であった（『使徒たちの使信の説明』54）と述べ、アレクサンドリアのクレメンスは2つの偽福音書に則って、イエスの誕生は処女性を保ったと述べた（『ストロマテイス』7.16）。4世紀の聖グレゴリオ・タウマトウルゴの作とされる文書の中にははっきりと述べている。「キリストが生まれる時、無原罪の胎と処女性を保たれた。それは、前代未聞の

この出産が私たちにとって偉大な神秘の印となるためであった」(J.B. Sitra, “Analecta Sacra”, IV, 391)。最も古い偽福音書は、突拍子さはあるものの、上記の証言と一致した伝統を残している。『ソロモンの頌歌』 19、『イザヤの昇天』 13、『ヤコブの偽福音書』 20-21、においては、イエスの誕生は奇跡的な様相を帯びている。

これらすべての証言は、教会によって承認されてきた信仰のある伝統を反映しているが、それは、マリアが出産前も、出産中も出産後も処女であったという信仰である。「教会は、処女である母への信仰を深めるにつれ、マリアは人となられた神の御子を産んだ時も含めて（『カトリック教会公文書資料集』 291; 294; 442; 503; 571; 1880）、真に終生の処女性を保たれたと公言するに至りました（同 427参照）。事実、キリストの誕生は、「母の完全な処女性

を傷つけることなくかえって聖化しました（『教会憲章』57）。教会の典礼は、マリアを「終生の処女」（Aeiparthenos）としてたたえます（『教会憲章』52）。」（カトリック教会のカテキズム499）

参考書: カトリック教会のカテキズム; J. GONZÁLEZ ECHEGARAY, Arqueología y evangelios, Verbo Divino, Estella 1994; S. MUÑOZ IGLESIAS, Los evangelios de la infancia, BAC, Madrid, 1990; F. VARO, Rabí Jesús de Nazaret, BAC, Madrid 2005
